じもとホールディングス連結業績

（単位：百万円、%）

	27年9月期	28年9月期	前年同期比	増減率
連結経常収益	21,889	22,449	559	2.5
経常利益	3,258	2,799	△458	△14.0
親会社株主に帰属する中間純利益	3,293	2,949	△343	△10.4

平成28年9月期の連結業績は、連結経常収益は224億49百万円、経常利益は27億99百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は29億49百万円となりました。

きらやか銀行・仙台銀行（単体）の2行合算

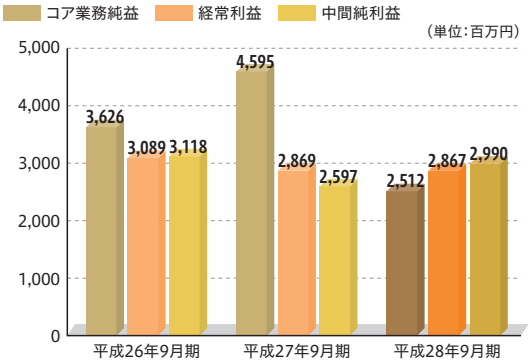
（単位：百万円、%）

	2行合算			
	27年9月期	28年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	21,185	19,471	△1,713	△8.0
業務粗利益	17,205	15,831	△1,373	△7.9
経費（除く臨時処理分）	12,902	13,088	186	1.4
コア業務純益	4,595	2,512	△2,083	△45.3
業務純益	4,950	2,742	△2,207	△44.5
経常利益	2,869	2,867	△1	0.0
中間純利益	2,597	2,990	392	15.0
貸出金	1,646,036	1,655,610	9,573	0.5
預金等（譲渡性預金を含む）	2,436,851	2,358,046	△78,804	△3.2
有価証券	723,022	674,116	△48,905	△6.7

2行合算の経常収益は、前年同期比17億13百万円減少の194億71百万円となりました。

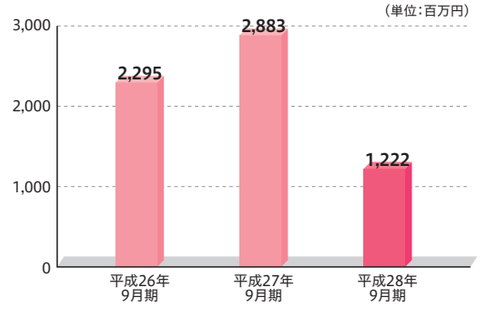
銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したことや物件費の増加により、前年同期比20億83百万円減少の25億12百万円となりました。

経常利益は、前年同期比1百万円減少の28億67百万円、中間純利益は前年同期比3億92百万円増加の29億90百万円となりました。



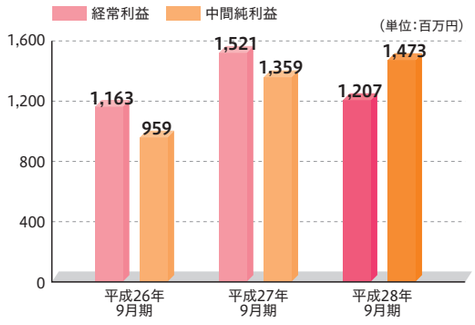
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したことなどから、前年同期比16億61百万円減少の12億22百万円となりました。



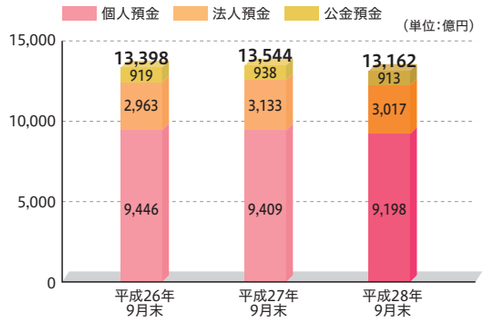
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は前年同期比3億14百万円減少の12億7百万円、中間純利益は前年同期比1億14百万円増加の14億73百万円となりました。



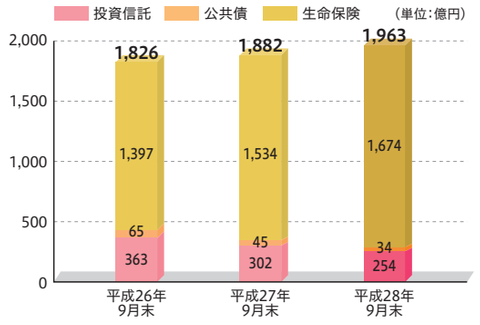
預金（譲渡性預金を含む）の状況

預金残高は、平成27年9月末比381億58百万円減少の1兆3,162億44百万円となりました。法人預金は、平成27年9月末比116億33百万円減少の3,017億14百万円となりましたが、平均残高は前年同期比93億11百万円増加の2,943億56百万円となりました。



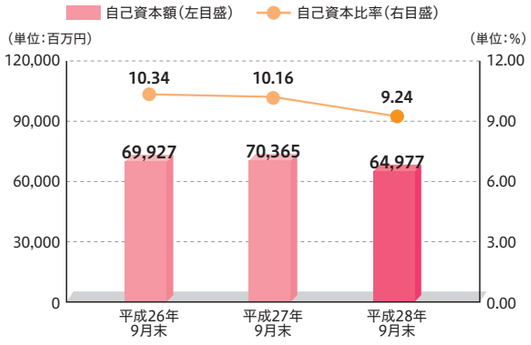
預かり資産の状況

預かり資産残高は、安定志向にあるお客さまニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成27年9月末比80億94百万円増加の1,963億72百万円となりました。



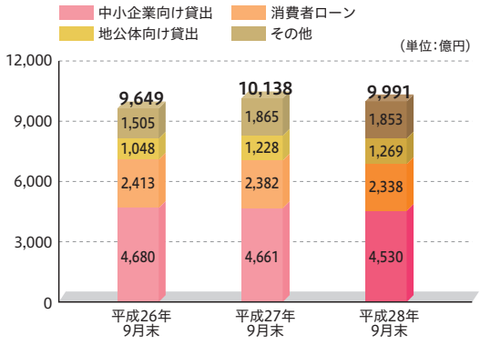
自己資本比率の状況

自己資本比率は、劣後特約付社債等61億円を平成28年3月期に期限前償還したことで自己資本額（分子）が減少したことから、平成27年9月末比0.92ポイント低下の9.24%となりました。



貸出金の状況

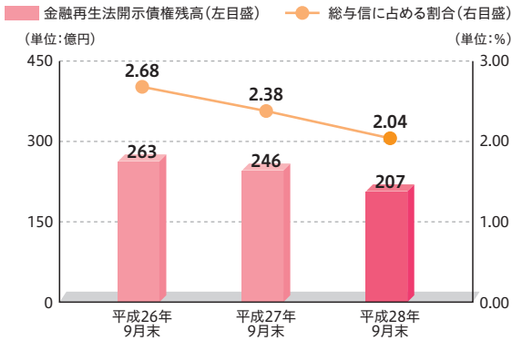
貸出金残高は、市場性ローンが償還により136億69百万円減少したことなどから、平成27年9月末比146億35百万円減少の9,991億69百万円となりました。中小企業等を含む事業性融資については、ほぼ横ばいとなっておりますが、事業性融資先数は、平成27年9月末比145先増加しております。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成27年9月末比38億40百万円減少の207億82百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成27年9月末比0.34ポイント低下の2.04%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



用語解説

■ **コア業務純益**　「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

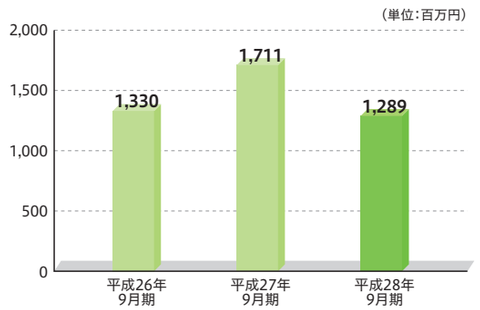
■ **経常利益**　「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ **中間純利益**　「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

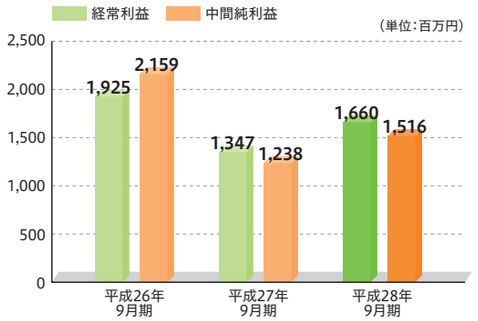
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益及び役務取引等利益の減少に加え、経費の増加などから、前年同期比4億21百万円減少の12億89百万円となりました。



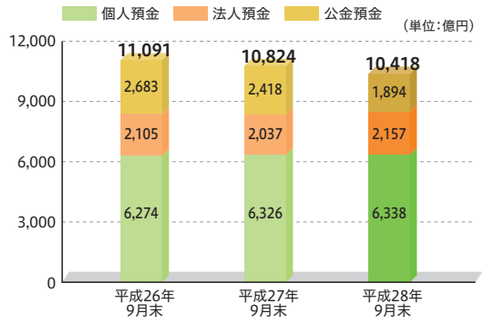
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比3億13百万円増加の16億60百万円、中間純利益は、前年同期比2億78百万円増加の15億16百万円となりました。



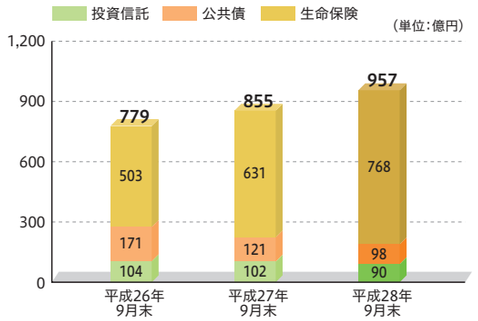
預金（譲渡性預金を含む）の状況

預金残高は、公金預金等の減少により、平成27年9月末比406億45百万円減少の1兆418億1百万円となりました。



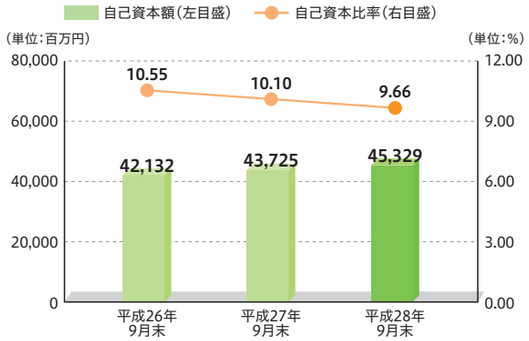
預かり資産の状況

預かり資産残高は、お客さまの資金運用ニーズへの対応により、生命保険残高が増加したことなどから、平成27年9月末比102億31百万円増加の957億51百万円となりました。



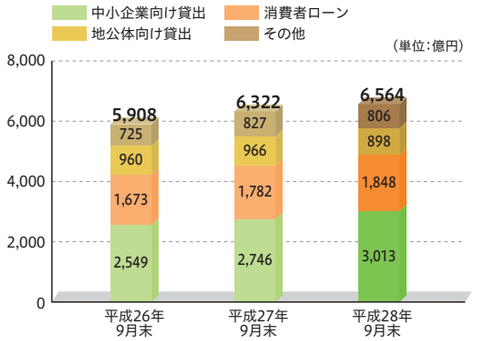
自己資本比率の状況

自己資本比率は、中間純利益を15億16百万円計上し、自己資本額（分子）が増加しましたが、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成27年9月末比0.44ポイント低下の9.66%となりました。



貸出金の状況

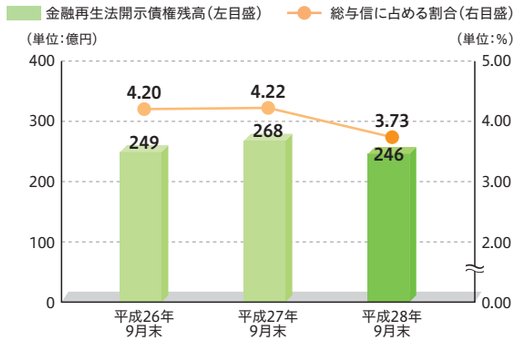
貸出金残高は、お客さまの様々な資金需要への積極的な対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローンが増加したことなどから、平成27年9月末比242億9百万円増加の6,564億41百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成27年9月末比22億39百万円減少の246億42百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成27年9月末比0.49ポイント低下の3.73%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



用語解説

■ **コア業務純益**　「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

■ **経常利益**　「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ **中間純利益**　「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。